



マントと傘とが、雨の日の全部で、顔なんかあってもなくてもいい。その傘の上に雷が鳴って、目を閉ぢても黄色の光がきらつとする。その時の自分は、雨にうたれてぬれてゐる黄い蝶に同じい。その同じい黄蝶を傘の上に、稲光りの黄の中にあり〜と幻想する。——幼児の繪は屢く理屈では解けないし、解き捨てゝもならない。

(倉橋生)